

はなわ 議会だより

2018
No.142

発行/福島県埴町
平成30年4月20日



3月定例会

- 平成30年度予算可決…………… P 4～5
- 町政をたずね（一般質問）… P 13～20
- 各委員会レポート…………… P 21
- 足跡レポート（あの質問どうなった）… P 24

緊張の第一歩
埴小学校

埧工業高校存続のための 調査特別委員会



県立埧工業高校

福 島県は県立高校の望ましい規模を1学年4〜6学級とし、1学年3学級以下の高校については統合を推進する方針を示している。埧工高の平成30年4月現在の生徒数は、1年生40名2学級、2年生58名2学級、3年生61名2学級である。

福島県立埧工業高等学校の 存続に関する調査特別委員会

り、県が示している統合校の条件に該当している。創立70年を迎える埧工高は、20年以上就職率100%を達成する水郡線沿線唯一の工業高校で、町内外企業にも多くの優秀な人材を輩出しており「地域の核」となる学校であるため埧町議会では存続を強く要望していた。今後より一層活動を強化するため、特別委員会を設置し調査研究することとなった。

- 委員長 鈴木 安次
副委員長 鈴木 茂
委員 七宮 広樹
- 議長を除く全議員

広報常任委員会

- 委員長 吉田 克則
副委員長 下重 義人
委員 高縁 光
委員 青砥 與藏
委員 吉田 広明
委員 七宮 広樹



議会運営委員会

- 委員長 割貝 寿一
副委員長 小林 達信
委員 鈴木 安次
委員 鈴木 茂
委員 吉田 克則

予算決算常任委員会

- 委員長 小林 達信
副委員長 割貝 寿一
委員 議長を除く全議員

議会構成決定

後期体制スタート

常任委員会の所属は2年と定められており、3月定例会最終日に所属替えを行いました。これにより、後期2年の議会体制がスタートしました。(任期は平成32年3月30日まで)。

総務常任委員会

- 所管課
・総務課
・町民課
・健康福祉課
・保育園
・会計室
・教育委員会
・選挙管理委員会
・監査委員

委員長



鈴木安次

副委員長



小峰由久



大縄武夫



小林達信



吉田克則



高縁 光



青砥與藏

経済常任委員会

- 所管課
・まち振興課
・まち整備課
・生活環境課
・農業委員会

委員長



鈴木 茂

副委員長



七宮広樹



鈴木孝則



藤田一男



割貝寿一



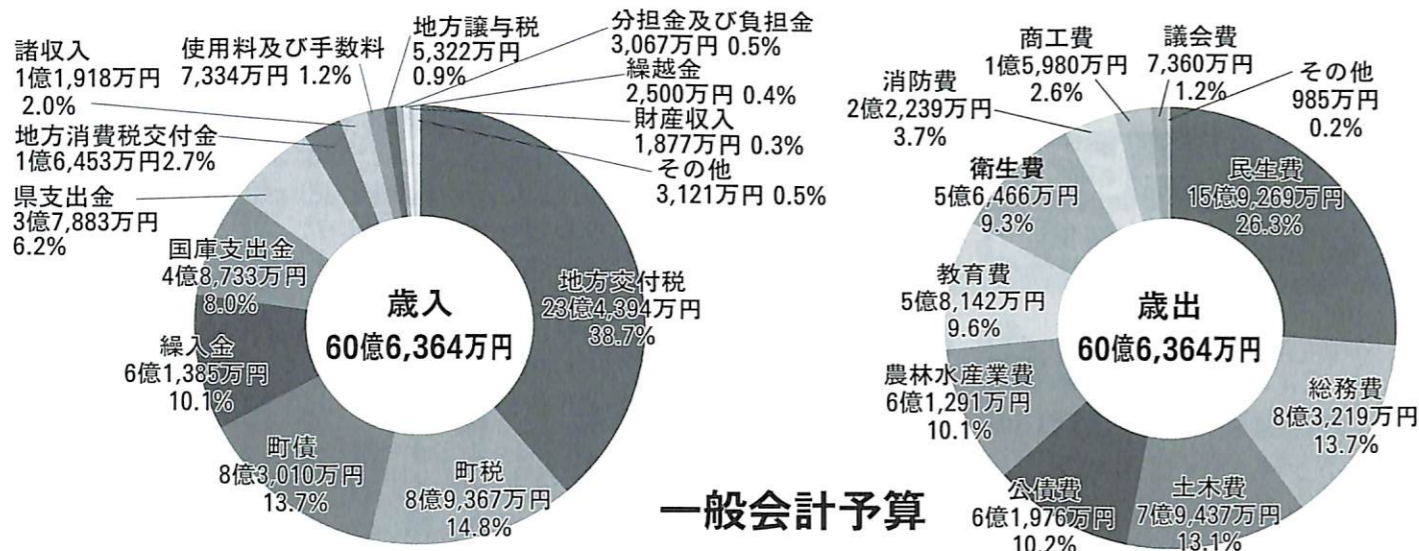
吉田広明



下重義人

平成30年度予算総額

85億2662万円を可決



平成30年度 一般会計予算採決状況一覧

議案	賛成×反対											議決結果 (賛成:反対)			
	七宮広樹	下重義人	吉田広明	青砥興藏	高緑光	吉田克則	鈴木茂	鈴木安次	小峰由久	割員寿一	小林達信		藤田一男	鈴木孝則	大縄武夫
議案第30号	○	○	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	○	一	可決(10:3)

賛成



七宮広樹議員

平成30年度予算案は、埴町の将来を描くこども園建設や子育て若者定住促進住宅団地事業など、確実に前に進めていく予算とはいえず納得するものではない。しかし、埴町の将来を見据えての各課の事務事業の見直し、経費の縮減、運用の合理化などを図り予算編成がなされている全体的にバランスのとれた予算が組まれていると思う。予算決算常任委員会でも十分に時間をかけ質疑を行った。議員の使命には、予算が適正かつ無駄なく確実に執行されているのか、町民の代表としてチェックする仕事が残されている。予算を承認したからといって終わりではなく最後まで見届ける大きな責任がある。

反対



吉田克則議員

こども園事業費12億円に対し、建設財源の80%以上にあたる9億7700万円を町が借金して建設を進めようとしている。多額の借入は、長期にわたり返済していかなければならず、次の世代の重荷になってくる。町が国、県に積極的に働きかけて補助金を獲得し、町民の負担が最小限になるような予算措置を講じていなければならない。しかしこの予算案では、町財政運営に支障をきたしかねない。私はこども園建設に反対ではない。多額の建設費をかけての、はなわこども園建設計画のあり方に問題があると思う。



高緑光議員

これまで事業として継続してきた住まいる環境リフォーム補助金が廃止となっている。昨年12月に配布された振興計画案では、平成31年度から廃止する計画となっていた。しかし、3カ月後のこの平成30年度予算案で前倒して廃止となっている。行政の見直しだとしても、自ら提案してきたものをわずか3カ月で手のひらを返すように変更することはあまりにも強引ではないか。

新年度一般会計予算で3議員が討論

前年度比0.1%増

3月定例会

3月定例会のあらまし

3月定例会は、3月6日から14日までの9日間の会期で開催しました。第1日目に、提出議案の一括説明と来年度における町長の施政方針を行い、また、子育て若者定住促進住宅団地予定地の土地を一部取得する1議案が原案どおり可決されました。第2日目は、引き続き提出議案の一括説明と町長施政方針に対し緊急質問が行われました。第3日目は、8人の議員が一般質問を行い、町政をただしました。第5・6日目の来年度予算を審議する予算決算常任委員会では、一般会計予算や介護保険特別会計予算で賛否が分かれ計7名の議員が討論を行い、最終日には、予算決算常任委員会の審査報告書が提出され、新年度予算などについて4議員が討論を行いました。結果、賛成多数で可決され、他33議案も原案どおり可決しました。その他、追加提案された教育委員会委員の任命に同意し、特別委員会と常任委員会、議会運営委員の選任を行い閉会しました。

こども園建設や

子育て若者定住促進住宅団地事業に着手

平 成30年度予算全会計の総額は、85億2662万円です。前年度に比べ893万円減額となりました。このうち、一般会計は60億6364万円です。前年度を3億1381万円上回った。県支出金を伴う農林水産費事業が大きく減少している一方、民生費や商工費、土木費などの事業が増加していることなどが影響しているためです。

第 5次長期総合計画に基づき、子育てや福祉に関する予算、町道をはじめとしたインフラの維持補修の主要プロジェクトに重点配分された。財政の健全化に努めながら、引き続きはなわこども園の建設計画や子育て若者定住促進住宅団地の造成に取り組むほか、ウツドスタート宣言を行ったことで、木育を推進するさまざまな事業の推進を図る。

予 算決算常任委員会では、詳細な説明を受け、徹底した議論を行った。議会からは、こども園建設事業による、借入金の増加や繰入金増加による財政運営を危惧する質疑や討論、介護保険料の値上げに対する討論などが行われた。

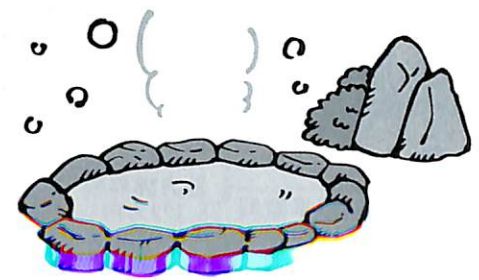
会計別	平成30年度 当初予算	対前年度比較	
		増減額	増減率
一般会計	60億6364万円	3億1381万円	5.46%
特別会計	国民健康保険	△2億3131万円	△17.76%
	笹原財産区	△4047万円	△99.36%
	農業集落排水処理事業	△2749万円	△16.84%
	公共下水道事業	△1785万円	△8.80%
	介護保険	907万円	0.95%
	後期高齢者医療	317万円	3.12%
	小計	△3億488万円	△11.02%
合計	85億2662万円	893万円	0.10%
水道事業	収益的支出	△9476万円	△27.15%
	資本的支出	1億8191万円	182.14%

今年が目玉 ピックアップ

デイサービスセンター 改修工事費

1249万円

介護保険法改正に伴いサービスを提供するデイサービスセンターの改修工事を行う。建築設計業務委託料30万円、改修工事660万円、高圧変電設備機器更新工事130万円、改修工事後の備品整備のため補助金として240万円が計上されている。



温泉熱利用システム導入事業

4062万円

源泉を温めて入浴に適した温度にするためのボイラーは、重油を燃料に稼働しているが、温められたお湯から出る熱を再利用する循環システムを導入し経費削減をはかる。測量業務委託料291万円、調査委託料54万円、導入工事費3717万円が計上されている。

緊急質問

町長答弁

常豊小学校の跡地問題

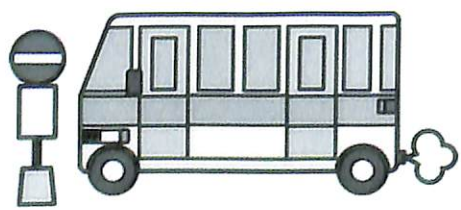
町内外から人が集まる施設にしたいと考えている。そのためには、地域の方々のご意見を聞きながらしっかりとした計画を立てていきたい。建物を壊すことは考えてなく、再利用したい。

公共交通

既存のタクシー会社の活用や試験運行の結果を盛り込み、町の新しい交通体系を構築していきたいと考えている。

塙工高存続問題

町民の方々にも、町の広報誌で連載ページを設けるなどして塙工高の活動を知らせてもらう努力をしたい。



ウッドスタート事業

277万円

木育推進及び林業振興を目的として新生児誕生祝品としての木製おもちゃを贈呈する。ウッドスタート事業誕生祝品64万円、事業玩具管理運営委託料51万円、木育キャラバン開催業務委託料51万円、町民を対象とした木育インストラクター養成講座参加負担金6万円が計上されている。



子育て若者定住促進住宅整備費

1億5000万円

末広町に計画している子育て若者定住促進住宅団地は、約1ヘクタールの土地に22区画の宅地を分譲する。平均面積は、65坪（62〜73坪）、販売価格は近隣の相場を参考とし決定していく。平成30年度に整備を完了し同年に販売を行う予定。造成に係る工事費1億5000万円を計上している。

条例

日陰解消から沿道整備に

道路の保全及び安全を図るため、道路の沿道区域の指摘基準を定める条例が提案され可決されました。



大畑地区（萩平橋本線）

これまでの日陰解消事業

町 はこれまで、冬期間の路面凍結防止のため道路沿線の立木を伐採する日陰解消事業に取り組んできた。地域からの要望に応じ立木の所有者に伐採を促し、移転補償費を支払うことで日陰解消に努めた。

課題

日陰解消のためには道路沿線ばかりでなく山林全体の伐採が必要となる箇所や、伐採経費が嵩み所有者の同意が得られないなどの課題があった。また、森林保護を目的とする森林整備計画（森林法に基づく）には、伐採後は植林をしなければならぬとなっており、せっかく伐採してもまた日陰になってしまう状況も生まれてきた。

新たな取り組み

～山の保全と森林伐採の調和を図る事業～

1. 立木の伐採は道路沿いに限定

日陰解消や安全対策のための立木伐採は道路沿い（概ね10m以内）に限定し、その区域は植林しないものとする。

2. 伐採は原則所有者が行う

立木伐採はこれまで同様所有者が行い、町は所有者等に対し補償費を支払う。必要に応じて町が伐採することもある。

3. 森林環境交付金事業との連携

道路沿いの伐採だけでは日陰解消にならない箇所や、周辺山林整備が必要な場所は見直し確保のため多めの間伐を実施し、伐採後に広葉樹を植えるなどの森林整備を行い、道路沿いの景観整備を行う。

4. 沿道区域指定（道路法第44条）の基準に関する条例の制定

道路の保全及び交通の安全が脅かされると認められる場合において、道路沿いの土地所有者等に措置を講ずべきことを命ずることが出来る制度により沿道整備事業の実効性を確保する。

条例

介護保険料改定

標準 月額5400円に

介護保険制度の改正を受け、第7期となる町の介護保険料が改正される。

新

しい保険料の基準額は、月5400円で4000円の引き上げとなった。また、1号被保険者保険料（65歳以上の高齢者）については、「標準9段階」とし、下記左の「5」を基準として所得によって負担割合を定める。また、改正に伴い第7～9段階の基準所得額も拡大される。

介護給付事業の重点

課題として、介護予防の取り組みや医療と介護の連携推進、さらに現役世代並みの所得のある者の利用者負担割合を現行2割から3割



健康体操

負担（ただし、月額44万4000円の負担上限あり）とすることなどが新しく盛り込まれた。

埴町介護保険料

平成30年度～32年度（第7期）		
段階	割合	保険料
1	0.5	2700円
2	0.75	4050円
3	0.75	4050円
4	0.9	4860円
5	1	5400円
6	1.2	6480円
7	1.3	7020円
8	1.5	8100円
9	1.7	9180円

介護保険料基準額比較（第5段階）

市町村名	第6期	第7期	増減
白河市	5800円	5900円	100円
西郷村	5700円	5700円	0円
泉崎村	5383円	5474円	91円
中島村	5425円	5425円	0円
矢吹町	5495円	5495円	0円
棚倉町	5000円	5600円	600円
矢祭町	4300円	4700円	400円
埴町	5000円	5400円	400円
鮫川村	4700円	5400円	700円
(参考)県平均	5592円	6061円	469円

市町村別第1号被保険者の介護保険料月額一覧
(出典：福島県HP情報データベース)

補正予算

平成29年度埴町一般会計補正予算（第6号）

2億7532万円を減額し、補正後の額を56億3788万円とする。町税の収入増、住宅使用料の減、児童手当負担金の減、ふくしま森林再生事業補助金の減など、ほか6特別会計、水道事業会計を可決。

人事

◎教育委員会委員の任命について

大縄剛氏（埴）

同意



任期は平成34年3月31日まで

予算決算常任委員会

～ 平成30年度当初予算に対する審議 ～

3月12日から2日間にわたり、平成30年度の一般会計及び特別会計・水道事業会計を予算決算常任委員会で審議が行われ、可決されました。

ふるさと納税

質疑

収入として1300万円を計上しているがその理由は。

答弁

平成29年12月時点での埴町へのふるさと納税実績が1300万円(329件)であり年々増加している。寄附しやすい環境を整えたことが大きな要因である。



米寿祝金支給

質疑

米寿祝金の新設理由及び内容は。

答弁

米寿は一般的な慣例でも御祝いしており、町としても同様に御祝いしたい。



避難所標識看板の設置

質疑

標識のイメージ及び設置個所について。

答弁

高さ2メートルで町内18カ所の屋外にある指定緊急避難場所に設置する。次年度以降は屋内にも設置する計画である。



道の駅集荷システム

質疑

システム概要及び対象者は。

答弁

道の駅出荷する全ての組合員225名が対象で、軽ワゴンか中古ワゴン1台を購入し集荷業務を担うことで、より効率的な集荷ができることで、出荷品数の安定化につながる。



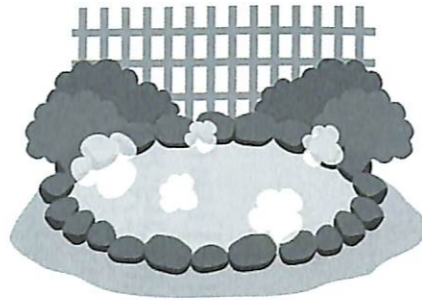
介護事業

質疑

介護予防教室にて認知症予防は急務である。

答弁

認知症予防の体操などカリキュラムに入っているが、専門家の招致を含め見直しを検討していきたい。



温泉熱利用システム

質疑

温泉熱をどのように利用し、その効果はどうか。

答弁

今まで捨てていたお風呂のお湯を熱交換器を経由することで再度ボイラーの熱源として利用することにより、重油量及び二酸化炭素を削減できる。



こども園建設工事

質疑

こども園建設委託契約の内容。

答弁

こども園管理業務と建設業務は一体であり一括契約を予定しているが、町として有益な契約方法があれば検討したい。また県産木材を利用した施設の木質化を進めるため、ふくしま森林環境交付金事業を活用する。



意見書を国へ提出 東京電力福島第二原子力 発電所の全基廃炉を要望

◎東京電力福島第二原子力発電所の全期廃炉を求める意見書
 昨年11月22日に、福島県沖を震源とするマグニチュード7.4の地震が発生し、東京電力福島第一原子力発電所では放射性物質の流出を抑えるシルトフェンスが破損し、東京電力福島第二原子力発電所では3号機において使用済み燃料プールの冷却機能が一時停止する事態が発生した。

よって、原子力発電所のトラブルは風評被害の払拭をはじめ、復興に向けた様々な取り組みの足かせとなっている。これらの不安を払拭するため、現在存続が未定となっている福島第二原子力発電所の全基廃炉を国の責任において早急に行うことを強く要望する。この見書を可決し、内閣総理大臣ほか4行政庁に意見書を提出した。

◎意見書・町の公益に関する事件について、町の議決機関である議会の意思を決定し、国・県などに表明するもの。法律に根拠を有し、対外的にその意思を表明し、公共の利益の増進を図る議会の権限

臨時議会

子育て若者定住促進 住宅団地造成へ

2月15日に第1回臨時議会が招集されました。

第1回臨時議会

◎財産の取得について
 子育て若者定住促進住宅団地の造成用地として末広町内の土地(6662.34㎡)を2510万7888円で取得する議案が提出され全会一致で可決しました。

道118号線から久慈川に向かって71・3mを末広町1号線とするもので、住宅団地の完成後には、末広町1号線と住宅団地内道路を一体の道路として管理していきたいとの説明がありました。

◎財産の取得又は処分町条例により、予定価格1500万円以上の不動産、動産の買入れ、売払いは議会の議決に付さなければならない。なお、工事又は製造の請負は予定価格5000万円以上の場合、議会の議決に付さなければならない。



子育て若者定住促進住宅団地建設予定地

町政をただす

町の考えを問う

学校給食の地産地消の取り組みは

平成30年度予算から

質問 「学校給食食材の納品改善」に向けた取り組みは、どのような計画をしているのか。

回答 振興作物の委託補助金を使い、実施する方向で調整をしている。



吉田 広明

創造する議会や町に

埴町コミュニティプラザに 埴町観光協会事務所移設はどうか

移転や「子育てグループの 運営機能」を併せて検討したい

質問 道の駅に間借りをしている埴町観光協会事務所の現状は、煩雑なレイアウトになっている。

回答 平成30年度から、「農泊推進事業」を展開する。事務所を移転する提案は良い。施設利用計画の見直しも検討したい。



埴町コミュニティプラザ

一般質問とは

議会は、住民の皆さんに代わって町の行財政の運営を監視する役割があります。一般質問は、その議会を構成する議員に与えられた権利です。町の事務の執行状況や町の将来への考え方について、報告や説明を町長に求めます。議会だよりに掲載している一般質問は、一般質問議員自らが作成し掲載しています。

「紙おむつ等の支援補助」が出来ないか

「子育て世代応援ポイントカード事業と併せて考えたい」
 質問 「紙おむつ等の支援補助」の他町村の事例は。

回答 棚倉町は二歳まで月額二千五百円、鮫川村は月額五千円、全国的にも支給例は多い。
 質問 「紙おむつや粉ミルク代」として支援補助はどうか。

回答 子育て世代の経済的負担の軽減や少子化対策として考えて行きたい。

「子育てサークル支援補助」が出来ないか

支援を考えたい
 質問 埴町は「子育てサークル」がない。支援は。

回答 子育てを学習する機会を持つ為にも支援を考えたい。

湯遊ランド多目的交流施設に「高齢者向けシェアハウス」を担当課と話し合ってみたい
 質問 冬季間利用する「高齢者向けシェアハウス」の提案はどうか。

回答 補助金の縛りがあるが、考えてみる。



鈴木 安次

人口減少に立ち向かうには、企業誘致が必要だ。

町の考えを問う

企業進出の支援策は

在町の企業に情報を提供する



チップ工場予定地 (伊香)

質問 チップ工場の説明会に出席した地区は。
答弁 上渋井地区のみ出席した。
質問 何故上渋井地区のみなのか。
答弁 その他の地区からの出席要請が無かった。

ば若者の働く場所がなくなり人口減少が増々進むが町の対応は。
答弁 森林整備加速化森林再生基金事業は国の事業であり、町の工業団地であれば積極的に対応した。
質問 人口減少を食い止めるには町が積極的に関与して企業誘致を進めるべきと思うが。
答弁 新しい工業団地の造成はリスクが高いので在町の企業に情報提供をすべく人事の中で担当する職員を配置する。

麦焼酎の製造は

カビなどが発生し製造は断念した

質問 麦焼酎を作ることにしていたが事業と内容が異なる。
答弁 平成29年度の事業で六条大麦を倉庫の圃場で栽培し、薩摩白波酒造に依頼して400本の麦焼酎を作る予定であったが、精麦の段階でコクゾウムシの発生やカビの発生があったので断念した。
質問 麦の栽培、収穫後の管理は何処が担当した。

答弁 まち振興課の職員と臨時職員である。
質問 麦焼酎を作ることに出来なかった責任は。
答弁 試験栽培なので失敗を次に生かす。
質問 補助金返還の可能性は。
答弁 東京で行われた講習会に出席しているので補助金の返還はない。県の了解も得ている。
質問 試験的に麦焼酎を作った後の板庭工場

孤独死・認知症者の徘徊対策は

地域全体の問題として取り組む

質問 各郵便局と児童・生徒及び高齢者等の対応に関する協定を結んだがそれで充分と考えているのか。
答弁 十分とは考えていない。
質問 郵便局以外の所と話し合いを持ったことがあるのか。

答弁 無い。民生委員、高齢者見守り隊が活動している。
質問 各種の業者と協定を結んで早期発見に努めるべきでは。
答弁 地域全体の問題としてしっかり取り組む。

町の考えを問う

ウッドスタート事業取り組みは

子ども達の心に木を植えたい

質問 事業の内容について議会に対し説明不足では。
答弁 きちっとした内容の説明が足りなかった。しっかりと説明するように申しつけた。

質問 木育円卓会議はどのようなメンバーで、何を議題として行うのか。
答弁 林業関係者、子育て支援者、自治体関係者で木の木育について話さう。

質問 誕生祝い品のおもちゃは地元で作れるのか。
答弁 ぜひ実行して行きたい。

質問 どの様なことをするのか。
答弁 木のおもちゃの遊び方や木のおもしろみを広める。

質問 ウッドスタートで、どのように町を活性化してゆくのか。
答弁 子ども達が木に親しみ、木の町に戻って来てくれるようにしたい。子ども達の心に木を植えたい。

チップ工場の進捗状況は

伊香地内に決定した

質問 NPO法人との契約の年数と経費はどのくらいか。
答弁 単年度契約である。経費はおもちゃの検品代、会議の打ち合わせ費用などである。

質問 子ども園の中で子育てサロンの木育化事業はどう行うのか。
答弁 木育広場の中で行いたい。

質問 誕生祝い品のおもちゃの養成は。
答弁 ぜひ養成したい。

質問 ウッドスタートで、どのように町を活性化してゆくのか。
答弁 子ども達が木に親しみ、木の町に戻って来てくれるようにしたい。子ども達の心に木を植えたい。

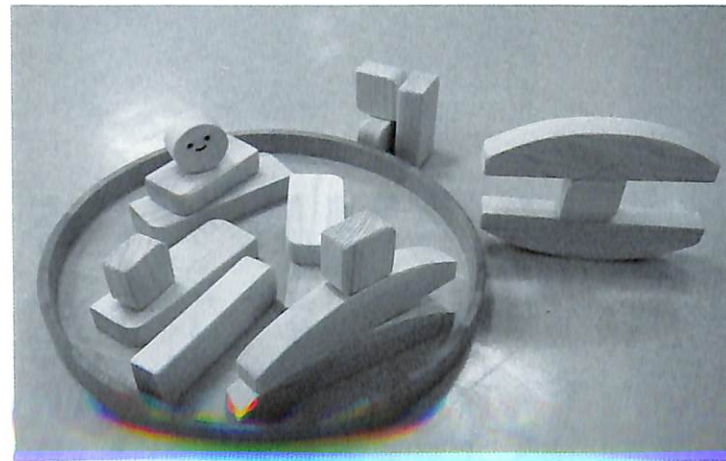
質問 八幡地内では町が関わらなかつたのか。
答弁 農地転用などで関わったが、深くはなかつた。

質問 企業誘致に対する町長の考えは。誘致はしないのか。
答弁 その時どきの状況に応じて積極的に進めて行きたい。



鈴木 茂

ウッドスタートが町活性化の起爆剤となり、大きな広がりとなることを期待する



誕生祝いの木のおもちゃ



青砥 與蔵

費用対効果が大事

地域住民活動をどう考えるか ぜひ検討したい

質問 山形県川西町の吉島地区に、公民館の運営を任せられ、区会・老人会・青年会・子供会などの組織の一元化をし「協力し合う地域は豊かになる」これが地域自主事業だと考え、行政サービスの隙間を埋めるような活動を進めている地域組織「きらりよしじまネットワーク」がある。町長は地域住民活動をどう考えるか。

回答 住民の協力し合う連携こそ、将来の町村の財政破綻を左右するキーワードになると考えている。是非検討したい。



きらりよしじまネットワーク研修風景

害虫駆除の焼き払いは 住民との話し合いで検討

質問 昨年度は自然環境不順に苦しめられた年だった。また、カメムシの異常発生は、農作物の品質に大きな影響を及ぼした年でもあった。害虫駆除は、

野焼き・焼き払いだけで解決されるものではないが、河川焼き払いは、行政が出来る対策の一つと考えるが町の考えは。

回答 平成21年以降、河川焼き払いは行っていないが、農事組合、区長、地域住民と話し合いをもって検討したい。

町堀の管理は

水量管理は行っていない

質問 町堀は、防災対策の意味合いが大きいと思うが、水量は少なく、火災時に十分な対応できないと感じる。町の考えは。

回答 現在、町堀は、水路委員、土木委員が管理しているが、水量の管理までは行っていない状況。町内連合区と検討したい。

質問 監査から議会に對して、備品資料管理が徹底されていないとの報告があるが現状は。

回答 以前より良くなっている。公会計時代に対応できる体制にしていきたい。

町長の考えを問う 「今後どうなる」常豊小学校跡地

公共的施設が望ましい

質問 跡地問題などのように協議したあか、また廃止条例とは何か。

回答 今後跡地問題は、人が多く集まる公共的な施設が望ましいと考えている。埴町学校施設等利活用検討委員会と協議を進めていきたい。

廃止条例については、平成29年6月定例議会で、議案第34号にて可決された。福島県教育委員会で協議し常豊小学校、常豊幼稚園の廃校、廃園が決まった。

質問 カラーリングを埴町独自のスポーツとして、また健康寿命を

伸ばすためにも、常豊小学校体育館を利活用できないか。

回答 常豊小学校体育館は20メートルの正方形で、少し狭いが埴町の特色である取り組みとしてカラーリングを活用することは、大変有効であると考えます。

不納欠損処理に至るまでの調査は

換価できる財産の有無

質問 健全財政の確保に關して不納欠損処理に至るまでにどのような調査を行うのか。

回答 滞納処分執行停止をする場合事前に

収入状況、預貯金、生命保険、車両、不動産などを調査している。時効による徴収権が消滅しないよう努めてまいります。

若者定住促進住宅周辺の開発は

民間主導が理想

質問 末広町にできる子育て若者定住促進住宅周辺の開発も考えていくのか。

回答 町として現在具体的計画はない。行政は関与しないということではなく、民間主導で行うのが理想だと考えている。

質問 土地を求め、家を建てた際に課税される固定資産税などの軽減は考えているのか

回答 何らかの助成金などを考え検討していきたい。

国土調査の進捗率は 進捗率は57%である

質問 国土調査の進捗状況は。

回答 昭和56年に着手して36年経過し進捗率は57%の見込みである。



下重 義人

暖かくなってきました。農作業にも十分気を付けて下さい。



埴町カラーリング大会の様子

質問 国土調査事業は現在国50%、県25%の補助事業である。今後山林境界明確化事業などの協力を得てスピードアップを図れると期待をしている。



七宮 広樹

不撓不屈とは強い意志を持ってどんな苦勞や困難にもくじけないさま

一般質問

世界に一つ！
小野田自然塾の活用は

小野田寛郎氏の精神を受け継ぎ、協力を続ける

【質問】 町は小野田自然塾とどのように関わって行くのか。

【回答】 町内外の子供たちの野外体験活動の場として、自然塾を活用し協力していく。

【質問】 小・中学校の授業の中に小野田自然塾を活用し、生き抜く力の学びの場としてカリキュラムに取り入れる考えは。

【回答】 小野田ブランドを活用した町のPR・地域おこしの考えは。【質問】 財団と協力しながら、小野田ブランドを大いに活用していきたい。

【質問】 埴町の新たな交通ネットワーク構築をどう描き、どう実施していくのか。

【回答】 タクシーを支流に高齢者に喜ばれるような交通体系ができればと思っている。主だった道路には福島交通を活用し、枝線にはタクシーを組み込む形。

町の考えを問う

急げ、観光スポットの環境整備

特色ある整備を進め、誘客に努める

【質問】 国道118号沿線に、向ヶ岡公園や風呂山公園を案内する大型看板や案内標識設置の考えは。

【回答】 平成31年度に計画をしている。

【質問】 向ヶ岡公園・利用者駐車場の舗装整備を実施する考えは。

【回答】 ぜひ検討したい。

【質問】 風呂山公園の公衆トイレは汲み取り式の為、子供をはじめ利用者が不評であるが、水洗トイレに改修する考えは。

【回答】 衛生面からトイレの改修・新設について考えたい。

【質問】 町内各観光案内標識の設置・地名にフリガナをつけた案内板



風呂山公園の公衆トイレ

など、訪れた方に優しい町づくりを進める考えは。【回答】 町内の観光案内標識は数が少なく、地名の読み方も難しいものが多くあるので、観光案内板製作時にはフリガナを併記するように対応したい。

運転に自信がなくても、返せない！
「運転免許証自主返納」どう進める

利便性の良い交通体系を
図り進めていく

【質問】 埴町の高齢者の自主返納制度に対する動向は。

【回答】 平成29年度中、埴町では16名の方が自主返納している。

【質問】 自主返納を促すための移動手段の確保や、生活支援の取り組みは。

【回答】 町の地域特性に合わせた方法を検討し、自主返納後も移動できる体制の構築を図っていく。

町の考えを問う

常小跡地を町役場常豊分庁舎に

町が判断して跡地利用を進める

【質問】 地域からの施設活用の意見聴取はどのようなことが出されたのか。出された意見の取り扱いは。

【回答】 たくさんのご意見をいただいた。意見は、まとめてあり検討委員会に提示し検討をしていた。検討委員会では、町に答申をしていく。

【質問】 町役場は常豊の中心に置いた時代があった。学校施設の一部を町役場常豊分庁舎として活用できないか。

【回答】 検討委員会から出された提案を重視して広範な意見をいただいた上で、最終的には町が判断して跡地利用を進めていく。

はなわこども園(仮称)待機児童は

待機児童が出ない約束は出来ない

【質問】 入園児定員を設けているが待機児童は出ないのか。

【回答】 定員は現在の保育園児・幼稚園児の人数を参考に算出、町の出生率は年々減少していくと思われる。この

まま家庭内保育人数が変わらず推移していけば待機児童は出ないのではないかと推測している。待機児童が出ない約束は出来ない。

【質問】 教育保育を一体的に行い将来を見据えた認定こども園にする考えは。国の子育て支援施策拡充が予想される町の考えは。

【回答】 はなわこども園(仮称)建設後に条件が揃えば認定こども園にしていく考えをしている。今後新たな財源確保に向けて要望活動をしっかりと進めていきたい。

町職員再任用の考え方は

希望職員を原則再任用

【質問】 町職員の再任用はあったのか。再任用の考え方は。

【回答】 これまでに1名の再任用をしている。町は再任用を希望する職員を原則として再任

閉校となった旧常豊小学校



町役場常豊分庁舎を置いて地域の賑わい再生を

吉田 克則



一般質問



高縁 光

食糧自給は国民の大切なものだと思っている。現在自給率は38%と報道されている。

町の考えを問う

県道高萩塙線の改良工事の見通しは

国土調査の成果を基に進めたい

質問 県道高萩塙線の改良工事の見通しは。
答弁 現在県は国土調査の成果を基に測量を行っており登記簿が整理され次第、県が買収し所有権を得て工事着工の運びとなる。平成30年度は過疎債を財源とし町独自に調査を行う。湯岐温泉は当町の観光の一つでもあり、地域住民の大きな生活道路である。

質問 町有地の所有権移転登記の状況について、町道など町有地について土地売買契約や寄附などによる町が取得しているもので所有権移転登記が済んでいないものがあるのか。
答弁 町は道路用地等買取った場合、所有権移転登記を行うことになっている。平成21年までに取得した物と見られる、古くは昭和30年代もあり平成29年12月31日筆数は、1519筆である。

新しい米生産調整に対する町の対応は

単価の高い転作作物の周知をはかる

質問 政府の新しい米の生産調整を受けて町の対応は。米の直接支払交付金と減反廃止により農家経営に影響が出ると予想される。
答弁 平成30年度から米政策が一部変更になる。今回の改正で減反政策が廃止されるわけではない。米の消費量が減少しており、米価安定のため需要調整は不可欠であり、生産数量目標と減反面積が平成30年度から無くなるため、町としても大変懸念している。単価の高い転作作物を各農家へ周知をはかる。

住まいる環境リフォーム補助金の継続を

新しい事業を弾力的に利用したい

質問 住まいる環境リフォーム補助金の引続き継続を。地元中小業者の仕事を確保するため。
答弁 住まいる環境リフォーム補助事業は町民の生活環境と地域経済の活性化のため実施いたしました。年平均20件前後の利用があった。今回復興基金が終了したため、財源の確保が難しく平成29年度で終了。今後高齢者にやさしい住まいづくり事業補助金があり組み入れました。今の制度で弾力的に利用したい。

委員会レポート

総務常任委員会

埴町立図書館・埴町学校給食センター

業務運営状況の調査

平 成30年2月9日(金)に、初めに埴町立図書館の調査を行った。担当課長・係長より、図書館事業の概要と活動内容について説明を受けた。その後、図書館の蔵書や利用状況・入館者数と図書貸し出し数の状況を聞き取り、平成29年度の予算と(株)内田洋行に委託している内容について調査した。

さまざまな取り組みがなされ適正に運営されていることが確認できたが、更なる業務運営の努力と、町民サービスの徹底を図っていただきたい。次に埴町学校給食センターの調査を行った。

給食センター長より、学校給食の配食数・収支状況・業務委託状況・施設概要・主食副食残総量・子供達のマナー教室・中学3年生にバイキング方式の食事にについて説明を受けた。

地元商店街からの食材購入も多く、調理にはスチームコンベクションを使い、安心・安全に給食提供に努めていることが確認できた。

埴工業高校への給食提供については、食器・配送・設備・徴収など諸問題があり、厳しく難しいと説明を受ける。県の地産地消推進事業補助金についても調査確認が必要と申し入れた。

経済常任委員会

まち振興課所管の委託金・補助金

カラー球根導入事業・ダリア切花生産出荷事業の調査

平 成30年2月20日(木)に委員会室においてカラー球根導入補助事業とダリア切花の補助事業と委託事業を調査した。

「カラー球根導入事業」は7年の長きにわたり総額533万円になる。「埴町地域資源活用総合交流促進施設指定管理委託料」は古民家とダリア園の管理料であるが、リニューアルしてからのダリア園はマスコミ等で報道され認知度はアップしているが塙の顔として恥ずかしい状況である。ダリア栽培指導員を投入してお金をとつても恥かしくない施設に早急にする必要がある。

補助金の支給を始めた当初はカラー切花の需要もあったが、年を追うごとにカラー切花の需要も下がり、補助金の多さの割には本来の補助金支給目的の栽培農家の増加、雇用の確保、税収のアップには繋がっていない。

「ダリア切花生産出荷事業補助金」は生産資材補助、球

議員と語ろう

顔が見える・開かれた議会を目指して



意見交換会の様子

【開催主旨】

埴町議会基本条例第5条第3項
議会は、町民、町民団体等との意見交換の場を設け、町民が町政に参画する機会の確保に努めなければならない。

テーマ1

はなわこども園(仮称)関連

Q 閉校した常豊小跡地を利用してはどうか。

A 建設費で12億円かかり、議会としても設計見直しを求めた経緯からも設置場所の変更は難しい。

Q 埴町に生まれた人は全てに入れる施設なのか。

A 全てが入れる子ども園に要望している。認定子ども園になると保育士の確保、経費もかかるようだ。



平成30年2月12日
(月)午後2時から
防災センター3階会議室にて、意見交換会を実施しました。
全議員14名と当日参加いただいた町民27名が、埴町の諸課題についてや、町政及び議会に関する質問や意見を出し合い、より良い町づくりを反映できる有意義な会となりました。

テーマ2

県立埴工業高校存続関連

Q 幅広く学生を集めるべきで、東白川郡外からも募集をかけるべきでは。

A 議会の中でもスクールバスの運行を町に要望しており、町としても幅広く学生を募集する方向を検討している。

Q 西日本に全寮制で特色ある高校があり、是非それを見本にすべきでは。

A 他校との差別化を図るための先進地視察は検討したい。



テーマ3

旧常豊小学校跡地利用関連

Q 旧常豊小を役場の一部として使用してはどうか。

A 一般質問でも役場機能への活用を示している。また民間に募集をかける地域の活力となるような利用方法やNPO法人に貸し出して活用する方法も検討している。

その他

- 小中学校の個性がない。木の町にふさわしい学校をつくるべきである。
- 埴厚生病院医師確保に向けて要請と、町民と医師の関わりを密にすべきである。
- 米山荘にかわる低料金で入れる老人施設をつくることを議会で考えてほしい。

意見交換会アンケート

(ご要望・ご意見)

- ・ 今回初めての参加で議会の仕組みがよくわかった。もっと多くの人が参加してもらいたい。
- ・ 前回より活発な意見交換で大変有意義であった。
- ・ 分かり易い説明で、取り組み内容を具体的に聞いた所がよかった。
- ・ 若い人の参加がほしい。
- ・ 決まった人からの意見が多く、もう少し多くの人の声を！
- ・ もう少し意見交換の時間がほしい。
- ・ 議員と会話したのではなく、行政担当者との会話をしているようであった。



ひとことインタビュー

3月の定例会の傍聴者数はのべ21人でした。傍聴された方の中から、上妻清人さんに傍聴した感想などをインタビューしました。

一般質問での ③ 丁々発止の 質疑応答を期待



上妻 清人さん

傍聴したきっかけは、

40数年ぶりに故郷埴町に戻り初めて町政選挙に一票を投じたのを機に、町の現状と町長・議員の信条であろう公約（特に高齢者対策）の実現に興味を持ち、そのためには議会傍聴が一番の方法と思ひ、なるべく多く足を運ぶことにしました。

傍聴された感想はどうでしたか

一般質問での丁々発止の質疑応答を期待したが、議員が行政矛盾などを追求し調査研究の結果

を質問するものの「検討します、相談します」等々の抽象的な答弁がしばしばで議論が噛み合わず、時間オーバーや繰り返し再質問が多い気がします。お互いに通告を検討する時間が足りないのでは。

議会に対する意見、要望はありますか。

町長公約の、大勢の人が期待したであろう、年金で入れる老人ホームの実現の可否をもっともつと議論してほしい。全国の地方行政の中には、少子高齢、人口減少

など苦悩の中での成功事例があるのではないかと、調査して紹介してほしい。パクっても良いのでは。

町に対する意見、要望はありますか。

優秀な町議員の志気とパワーが減速しているような感じがする。町民を味方とし、町の発展のために発奮してほしい。大いに期待します。

③ 丁々発止とは・・・議論を激しく戦わせるさま。

追跡 レポート

読者の視点 あの質問 どうなった？

議員の一般質問の中からピックアップし、その動き・現在の状況を調査します。

●平成29年12月定例会

質問 産業廃棄物が最終処分場から

現在行われている一般廃棄物最終処分場工事現場から平成29年5月9日に産業廃棄物、8月7日に医療廃棄物が発見された。

なぜ報道は10月だったのか。もっと迅速に対応すべきではなかったか。



答弁 産業廃棄物の確認に時間がかかった

産業廃棄物及び医療廃棄物がどのような物なのか確認に時間がかかった。

なお発見された箇所の土壌及び浸出水の検査は、いずれも基準値以下だった。



その後 少量の産業廃棄物が出た

後にコンクリート破片の産業廃棄物が出たが適正に処分した。

平成30年9月末日には、一般廃棄物最終処分場第二期工事は終了となり完成予定である。

今後、環境にも大きく影響を及ぼす場所なので監視の目を光らせていきます。

●平成29年12月定例会 ●平成30年3月定例会

質問 学校給食の地産地消は

鮫川村の地元野菜は30～40%だが、埴町の学校給食センターへの地元野菜の納品状況を問う。

地産地消は真剣に取り組むべきではないか。

(平成29年12月定例会)



答弁 本年度は納品がない。

給食センターで年間使用している農産物の数量把握を行い、平成30年度当初予算から振興産物の委託料補助金を活用し、道の駅に月間使用野菜を提示し地場農産物の購入につなげたい。



その後 方向性検討へ

関係部局でプロジェクトチームを立ち上げ具体的な方向性について、実施する方向で調整をしている。

(平成30年3月定例会)

◎意見交換会についてP2~3

・意見交換会は、議会が町民から話を聞こうという姿勢がよくわかる。
 ・今年にかける1文字は、何を言おうとしているのかわからない。
 対応 来年はもっと意味が分かりやすい表記にしたい。(2文字や議員の一言など)

◎補正予算(湯遊ランド)

・町と振興公社の負担区分を図や表を使って表記した方が分かりやすいと思う。
 対応 文章だけでなく図や表を使った紙面を心掛けたい。

◎振興計画P6~7

・分譲予定地の航空写真は、場所が分かりにくい。説明があるとよかった。
 ・あぶくま美術館の存続が決まって良かった。
 対応 読んでいて不明点がでないような紙面づくりと内容の充実に努めたい。

◎一般質問P11~19

・質問事項が多く掲載されていると答弁の内容も簡略的なので、内容が深いものでなかったのかと少し不安もある。
 対応 一つの質問を深掘りして掲載するなど検討していきたい。

今回は、議会だより141号(30年1月20日発行)について寄せられた意見を掲載します。

議会だよりモニターさんの声

私もひとこと

委嘱されたモニターさん2人に議会だよりについてご意見をいただきました。

町民ために一致団結して



近藤文男さん (常豊地区)

議会だよりモニターを二期やらせて頂きましたが、私の意見や不明点の質問に対して、一度だけ取り上げてくれた議員さんありがとうございました。以前、荒川紘さんが言っていました、「意見は述べ、不明点についての質問をしてきて、それに対する議員からの反応がない。」確かに、それはモニターに意欲は薄らぎ、どうでもいいという気になってしまっている。ちゃんと読んでいるのかな？議員の皆さん、町民のために一致団結して、頑張ってください。

町民が町政に関心を持つ事が大事

「やっぱり埴がいいな」と子供達が帰省すると口々に言う。都会と比べれば何もないけれど、安心であったり、温かさのある町なのだろう。この町が子供達の帰りたい場所であり続けるには「町民が町政に関心を持つ」事だと思はる。町民行政一丸となって最善を模索する為のツールである議会だより。今回、モニターとして参加できた事で、少なくとも以前より「関心」を持ってたと思う。子供達にもぜひ茶の間の卓上に置いて目を通してもらえたらと思う。



佐藤紀代美さん (埴地区)

議会だより全国コンクール奨励賞
 住民の目を惹く編集評価

表彰

議会だより第137号が第32回町議会広報全国コンクールにおいて編集・デザイン部門の「奨励賞」を受賞しました。(応募総数279議会)奨励賞は、入選には及ばないものの、次回コンクールでの入選に向けて、一層の研鑽を奨めるための賞として、順位・得点にかかわらず「企画・構成」「編集・デザイン」「言語・文章」の各部門から合計8紙が選ばれました。



審査員からは「住民の目を惹く編集で、議会の積極的な活動と広報がリンクした好事例」などと評価されました。さらなる研鑽を積み町民に愛される紙面づくりを目指していきます。



奨励賞 第137号

議会活動出欠状況

平成30年1月1日~3月31日

年月日	会議名称	七宮広樹	下重義人	吉田広明	青砥興藏	高緑光	吉田克則	鈴木茂	鈴木安次	小峰由久	割貝寿一	小林達信	藤田一男	鈴木孝則	大縄武夫
30.1.12	広報常任委員会	○	○	○	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—
30.1.17	広報常任委員会	○	○	忌引	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—
30.1.19	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.2.1	本宮市視察研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.2.1	町村議会議員研修会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.2.9	総務常任委員会	私用	○	○	—	—	—	○	—	—	○	—	○	○	—
30.2.12	意見交換会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.2.15	議会運営委員会	—	—	—	—	—	○	○	○	—	○	○	—	○	○
30.2.15	2月臨時議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.2.20	経済常任委員会	—	—	—	○	○	○	—	○	○	—	○	—	—	○
30.2.23	東白川地方町村議会議長主催議員研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	私用	○	○	○
30.2.26	議会運営委員会	—	—	—	—	—	○	○	○	—	○	○	—	○	○
30.3.2	総務常任委員会	○	○	○	—	—	—	○	—	—	○	—	○	○	—
30.3.2	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30.3.6-14	3月定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○出席 該当外

議員は会議に出席する義務があり、正当な理由がなく欠席すると罰せられることがあります。議会では欠席の正当な理由として、配偶者・親族の葬儀(忌引)、病気・けが(傷病)、突発的事故(事故)、その他議長が認める場合です。表ではそれぞれ、忌引、傷病、事故、その他と表記し、それ以外の正当な理由外の欠席の場合は私用と表記しました。

皆さんの団体やサークルに広報常任委員が伺います。

団体の名称：箏和会（そうわかい）

活動場所：川上繕

会長：下重春江 TEL：43 - 0809



箏和会は、毎月東京から先生（筑紫会 箏曲教授師範宮崎歌）が来町し3～4日会員18名が箏の指導を受け、その他は毎週1回の練習をしています。会の活動としては、年1回のおさらい会、町の行事である芸能祭への参加、そして福祉施設への慰問などを主な活動としています。

日本の伝統楽器である箏を通し、古典的な所は守りつつも新しいジャンルへも好奇心と興味を持ちチャレンジしていきたいと思っています。その一つとして去年はクラシックの「カノン」やジブリ映画「天空の城ラピュタ」の主題歌である「君をのせて」など、箏では馴染みのない曲を演奏しました。

今年で14年になります。今後も、会員相互の親睦を深め合いながら演奏技術の向上又その文化に親しみさらには地域文化の向上の一部に関わることができれば良いと思っております。

編集後記

常豊小学校・幼稚園は3月31日をもって閉校・閉園になりました。常小は明治10年に創立され140年の長き歴史に幕を閉じました。4月から児童は塙小学校に通学して、元気良く何事にも頑張っている頃と思います。

町は平成30年度一般会計予算、特別会計予算、水道事業予算が成立し、その予算にそって仕事が進められています。議会では各常任委員会の改選がありました。広報常任委員会も今後は新しいメンバーで「議会だより」の編集作業をおこないます。

吉田 克則

議会傍聴に おいでください

次回の定例会は、6月7日から開会される予定です。氏名の記入など簡単な手続きで傍聴できます。ぜひお出かけください。

広報常任委員会

委員長	吉田 克則
副委員長	下重 義人
委員	高縁 光
委員	青砥 與藏
委員	吉田 明
委員	七宮 樹

※議会議録は、事務局・会議室またはホームページでご覧になれます。